

平成 21 年度学校評価を受けての今年度の評価と来年度の課題

分掌・年次	今年度の評価 と 来年度の課題
教務	<p>1. 目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多様な進路希望に対応できる教育課程により，一人ひとりの個性を伸ばす。 2 科目選択の指導を充分に行う。 3 高校3年間の学習の土台となる系列を定めさせる。 4 学習指導と評価の工夫を進める。 <p>2. 1をふまえた学校評価結果の分析及び改善策の提案</p> <p>教務に直接関係した質問について，評価結果を分析し改善策を検討した。</p> <p>教員の評価・生徒の評価・保護者の評価それぞれを対比し，感じている部分の矛盾を分析することにより本校の課題が見えてくるように思われる。</p> <p>生徒に対する「問7選択科目や必修科目が自分の個性や進路に合っている。」「問8自分の学力に応じた授業や，系列の特色を生かした授業が行われている。」「問9多くの先生方はわかりやすい授業をしてくれる。」「問10履修ハンドブックを活用して，科目選択のガイダンスや進路指導がなされている。」「問12多くの先生方は公正で公平な評価をしてくれる。」の回答を中心に，職員・保護者の回答も関連させながら特徴を見てみたい。</p> <p>残念ながらこれらの質問に対していずれも「達成できた」または「ほぼ達成できた」と回答した合計が80%を超えることはなかった。</p> <p>問7（59.8%），問8（76.0%）だった。柔軟なカリキュラム&多彩な選択科目という総合学科の特色について，多数の生徒がそのよさを理解していると思われるが，生かし切れていない。履修登録の際，十二分な科目説明と上級生から下級生に生の声を伝えられるような場の設定ができないか検討する必要があると感ずる。また，可能であるなら詳しい聞き取りを行い，個々に応じた十分な指導（個別対応）を行う必要がある。</p> <p>生徒への問9（肯定57.1%）・問12（肯定55.8%）は昨年より若干向上している。この2問は上記目標4に関する質問だが，この程度の肯定評価で満足するものではない。20年度から本格的に取り組んでいる教員同士の授業見学，また，時制についても生徒の理解が継続・定着されるような50分1コマ制の導入も視野に入れ，授業力の向上に全職員で取り組む必要がある。せめて肯定7割以上を目指したい。</p> <p>職員への「問28自らの授業を継続的に点検し，指導の工夫・改善を行っている」に対しては93.1%が肯定的な回答だった。また「問30評価規準を明確にし，生徒の学習状況を適切に評価している」に対しても91%が肯定的に回答している。ここでもやはり授業をする者＝評価をする者に対し，授業を受ける者＝授業を評価する者のギャップが大きい。この30%ギャップを埋めていく努力をすることが本校職員の課題である。</p> <p>生徒への問12「公正・公平な評価」に関しては，低い評価を受けた生徒が否定評価44%という数字を出していると思われる。評価規準が明示され，それに基づいて評価している以上，不明であれば担当教諭に説明を求める機会を設けていき生徒が納得できる評価に近づけたい。</p> <p>教務に直接関係する保護者への質問は否定2割未満の回答がほとんどであったが，「問6わかりやすい授業について」は20.3%が否定的な回答となった。当然のことながら保護者の情報源は家庭での会話なのだと推測される。『授業が解らない』『思ったような成績がとれない』と言う子供の声からこのような回答が導きだされてくることを我々は謙虚に受け止めたい。</p>

<p>教 務</p>	<p>「問 8 授業参観について」は33.4%が否定的である。授業参観については三者懇談期間に合わせて年間二度設定しているが、残念ながら数字のとおり保護者の参観は極めて少なかった。1年次の履修説明会や免許取得許可式等、保護者が学校に来る機会に授業参観を設定したい。また、22年度はPTA総会を4月29日〔昭和の日〕に設定してあるので、ここで大勢の保護者に参観をしてもらえればと考えている。</p> <p>どの質問に対しても「わからない」という回答がまだまだ多く、この学校評価がより有効なものとなるよう質問の文言や言い回し等について改善を図りたい。また、「より多くの保護者に学校へ足を運んでもらう試み」や「情報を知ってもらおう試みが」がさらに求められると思われる。さらなる努力をしていきたい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>今年度の評価・反省点</p> <p>本年度男子の頭髪規程を設け、実施に至った。大きな問題はなくスムーズに内規として実施できた。職員の同一歩調と共通理解、認識のもとに大きな成果を挙げることができた。また、ベスト、セーターの制服完全化にむけても生徒の中に浸透しつつあり乱れがなくなったような気がする。問題行動も昨年度数の半分と激減をした。しかし無許可でのアルバイト・無許可での免許取得等指導上の不徹底さも我々の課題とも考えられる。交通事故の件数は増加傾向にある。特に自転車乗車中の事故が多く大事には至らなかったが自転車マナーも含めて啓発することが大切である。学校評価を受けて職員間での研修会や情報の交換の必要性を感じた。新たな時制に伴って生徒の遅刻に対する自覚が見え始めているようである。基本的な生活習慣の確立をめざし次年度に向け分掌会議等で検討を重ねていきたい。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標</p> <p>女子制服のスカートの統一がなされる年度となり、正しい制服の着こなし等道徳教育にも指導を傾注すべきであると考えている。交通事故0を目指し、特に原因となった傘さし運転での事故を減らすためにも雨合羽の着用の励行をする。1年次のステッカー購入時に合羽の購入も促し、運動部生徒中心に合羽着用を推進する。また、下校時指導を行い下校時の安全啓発や服装の乱れ等も指導を行いながら、本校の生徒としての自覚をしっかりと持たせたい。学校評価を受け家庭との連携、連絡を密にし、学校方針を理解していただきながら協力を求めていく。全職員間で温度差が生まれることなく研修会等の実施を行い、共通理解のもと健全な生徒像を目指し適切な指導を今後も心がける。</p>
<p>進路指導</p>	<p>1 具体的な目標</p> <p>(1) 生徒全員の希望進路を実現させると共に、卒業後、上級学校や企業に十分に適応し、成長していくために必要な諸能力を身につけさせる。</p> <p>(2) 進路指導の観点から本校生徒に必要な諸能力を「言語力」「文章表現力・コミュニケーション力」「社会人基礎力」の三つ集約させ、その三つの力を育成する。</p> <p>2 学校評価結果の分析・改善案</p> <p>本年度の教職員による進路指導に対する評価の各項目において、若干ではあるが昨年度より肯定的な評価が増えている。また、保護者による自由記述の評価の中に、本校の進路指導に対する肯定的な意見がいくつか見られた。今年度は不況による厳しい就職状況、それに伴う県内上級学校の難化にも関わらず、本校生徒の進路決定状況は良好であった。創立以来、総合学科としての進路指導を模索して十年余が過ぎ、ようやく本校の進路指導の方向と方法が定まり、ある一定の成果を得ることができる段階に達したと言えよう。</p>

<p>進路指導</p>	<p>総合学科では、半世紀以上の歴史を持つ普通科の「進学指導」や専門・職業学科の「就職指導」がそのままの形では活かせない。また、総合学科である本校の場合、普通科や専門・職業学科に比べ、学校全体の進路についての目標をつくるのが難しいことも否めない。そのような状況は依然としてあるが、1の目標で述べたように、本校生徒一人ひとりの進路を実現させ、進学後や入社後に、上級学校や企業に十分に適応し、成長していくために必要な諸能力を「言語学力」「文章表現力・コミュニケーション力」「社会人基礎力」の三つの力に集約させ指導することが、総合学科の進路指導ではますます重要になると考える。</p> <p>新年度は、継続審議となった「推薦審議のための特別評価」の決定、成績上位者に対する個別学習支援・指導の導入など、幾つかの課題が残っている。年次・教科・関連分掌との話し合いや連携をこれまで以上に進めていきたい。</p> <p>生徒・保護者に対しても、本校の進路指導の特徴をわかりやすく伝える工夫をしなければならない。高校側が保護者に対して進路についての的確な情報を伝えることは非常に大切なことだと考える。総合学科高校の学びの根本には「キャリア学習」「進路学習」がある。保護者も進路の現状について深く知り、家庭で進路についての話し合いを深めることが、生徒の進路選択・進路実現にとって重要なこととなる。</p>
<p>総務・総合学科</p>	<p>総合学科分野 今年度の評価</p> <p>学校評価の本係に関する部分は、本年度も概ね肯定的評価をいただいたようだ。しかし、保護者問5については情報不足で回答しにくいものであったと推測する。</p> <p>今年度の反省点</p> <p>職員問27 体験・課題解決学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次「総合的な学習の時間」専門学校を目指すコースでも「職業人」の講話を実施し、教員・生徒に好評であった。「就職」を目指すコース以外でも社会人講師（外部講師）を招聘することは効果的であった。 <p>職員問33 産社・総合学習 自主性・思考力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画・題材教材の工夫が継続的に必要である。 <p>職員問68 分掌・年次間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」授業展開場所は、係内で年度初めに計画・調整し、円滑にできたことが多かったが、他の係が詳細計画を立案し、総合学習授業を主導する場合に、使用教室が重なることがあった。年度初め及び行事準備早期に確認再調整が必要であった。 <p>その他全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係が毎年入れ替わり、係自身がゼロからのスタートであることも多い。年次特性に考慮し学習内容を工夫するべき指導を有効的に積み上げることが難しい。 <p>来年度へ向けての課題・目標</p> <p>職員問27 体験・課題解決学習 職員問33 総合学習・自主性 生徒問11 産社・総合学習 考え方生き方のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性や問題解決をより育める題材教材の情報収集・研究を続ける。 <p>職員問35 「課題研究」効果的指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容や到達度を上げるためには、Aまたは一般的なBなどの方法がよいと考える。 <p>A「課題研究」を年次主導（正副ホームルーム担任）で行うことで、研究内容が生徒自身の進路により直結し、意識面などに大きな効果が期待できる。</p> <p>教員一人当たりの生徒数は増えるが可能と思われる。</p> <p>B「課題研究」を系列・教科主導で行うことで、研究内容が生徒自身の進路により直結し、意識面などに大きな効果が期待できる。教員一人当たりの生徒数は系列・教科で変動するが可能と思われる。</p>

総務・総合学科

職員問36 インターンシップ

・活性化にあたり、希望者に作文を書かせるは継続し、一年次生への早期ガイダンスを工夫し行う。

職員問68 分掌・年次間連携

・「総合的な学習の時間」授業展開場所は、年度初め及び行事準備早期に確認・再調整を行う。

保護者問5 産社・総合学習の状況把握

・保護者、外部への実施内容・情報提供として、本校のWebサイトに学習内容の近況を主単元内容について学校Webサイトで簡潔に報告したい。

総務分野

今年度の評価・反省点

○KJ通信の発行(3回)、記者クラブへの投げ込み活動、ホームページ作成のための画像提供を行うことにより、中学校(中学生)・保護者・地域社会への広報活動を行った。

○KJ通信の中学校時の認知度および本校理解への役立ち感の検証のため、1年次生を対象にアンケート調査を行った。その結果、70%の生徒が中学校でKJ通信を目にし、うち80%が本校を知るのに役立ったと回答し、中学生への広報効果を検証できた。発行した3号のうち最後の1号は、今年度より中学2年生に配布を依頼し、進路へ向けて早い情報提供に努めた。

○記者クラブへの投げ込みにより、学校行事や生徒の活動の情報をマスコミに提供し、いくつかの行事についてTVニュースや新聞に取り上げてもらうことができた。

○学校行事・授業・様々な生徒の活動の記録写真の撮影保存に努め、教育学に画像提供を行い、ホームページをこまめに更新してもらうことができた。また、PTA新聞・学校新聞等で画像を利用してもらい、広報活動に役立てることができた。

○学校評価アンケート生徒問27保護者問25「KJ通信、年次通信、ホームページなどで学校内の情報が適切に伝わっている。」達成できた・ほぼ達成できた生徒：20年度55.3%→21年度1回目89.9%→21年度2回56.4%保護者：20年度63.0%→21年度61.7%となり、生徒・保護者とも昨年度とは大きな変動はないが、生徒の今年度内での比較では後半は大幅に減少しており、KJ通信やHPの内容について、生徒の興味関心のある役立つものをとりあげる等さらなる工夫が必要と思われる。また、HPの更新状況等生徒保護者に何らかの形で知らせることも可能と思われる。

○学校評価アンケート保護者問8「保護者に授業参観する機会がある。」達成できた・ほぼ達成できた19年度18.8%→20年度49.7%→21年度59.9%となり、授業参観期間を設けた平成20年度から次第に向上しているものの、わからないを含めた否定的な回答が40%あまりとなる。これを向上させることで、保護者問6「わかりやすい授業が行われている。」の否定的回答(わからない29.2%・達成できなかったあまり達成できなかった20.3%)も改善されると思われる。

○学校評価アンケート保護者問13「家庭・地域・関係機関等の連携が、適切に行われている。」達成できた・ほぼ達成できた19年度49.1%→20年度58.2%→21年度53.2%で、今年度も達成度が低かった。学校からの情報提供や広報活動によって連携が図りやすくなるものと考ええる。

○保護者の記述回答には、学校へ行く機会が少ない・子どもが学校の様子を話さない・授業参観やPTA総会に日程的に参加できないなども頻度高く見られた。このような意見に答える対策を取ることが、評価改善にもつながると考える。

○学校評価アンケートへの保護者回答が「わからない」という項目がまだ多く、アンケートの回収率(20年度62.5%→21年度69.3%)も高いとは言えない。改善の努力が必要である。

○学校評価結果の公表説明については、PTA総会において文書・口頭で行ったものの、ホームページへの掲載はできなかった。保護者のみでなく、地域社会への情報公開をすすめる工夫を図る必要がある。

<p>総務・総合学科</p>	<p>来年度へ向けての課題・目標 引き続き、次のことを目標に取り組んでいきたい。 ①開かれた学校づくりのための広報活動を推進する。 ②教育活動の活性化を図るための適正な学校評価環境を整える。</p> <p>○広報活動 ・保護者に的確な情報が伝わるよう、関係分掌と協力し、保護者が学校により多く足を運んでくれるような条件を整える。(たとえば、PTA関係の会議や授業参観の日や時間帯の工夫等) ・KJ通信の内容をさらに検討し、わかりやすく、視覚に訴え、本校生徒にも中学生にも興味を持てるようなものになるよう工夫する。 ・各種活動の画像記録に努め、本校教育活動の広範な周知が図れるよう、ホームページ作りに協力する。 ・一括送付により学校からの通知等の情報が確実に伝わるようにすると共に、各分掌 ・年次・HR担任の協力を得て、十分な量の情報が提供できるよう努力する。 ・記者クラブへの投げ込み活動を充実させ、マスコミを通し、広く社会へ向け、本校の教育活動の周知を図る。</p> <p>○学校評価アンケート ・学校改善につながるよう、学校評価アンケートの内容や文言の検討を行う。 ・保護者に対しては、回収率を上げるために、回答方法や回収方法の改善を工夫する。 ・PTA総会での保護者への説明・HP上への提示等、結果の公表に努める。</p>
<p>保健安全</p>	<p>今年度の評価・反省点 1 基本的な生活習慣のあり方や自己の健康管理、保健室の正しい利用方法・マナーなどを「保健だより」(毎月発行)で喚起したが、保健室の来室者もH20年度は2,456人だったが今年度は2月末時点で1,601人である。心身ともに健康な生活を送れる良い方向に向かっている。 2 保健室が健康管理センター(心身共に)として機能するように、校医との連絡を密にし指導助言を受けながら健康観察を実施した。(特に新型インフルについて) 3 学校行事の中に保健健康に関わる教育行事を定着させ(3年次の性教育)、社会変化に対応できる教養育成や意識改革を図ることができた。 4 今年度から健康カードの書式を改善したため、生徒個々の状況をより詳しく把握できるようになった 5 今年度から、耳鼻科及び眼科検診について2・3年次生は1次スクリーニングを実施し、該当生徒の検診を行ったため、健康指導が向上できた。 6 安全点検を年3回実施したが、備品や消耗品の点検のみになりつつあるので点検項目や点検のあり方を再検討する必要がある。</p> <p>反省をふまえた学校評価結果の分析及び改善策の提案 ○保健室が健康管理センター(心身共に)として機能するように、学年と保健室が相互の情報を「密に必ず」提供共有し合い知らなかったことがないように危機管理機能をもっと向上出来るように、各学年に分掌係を配置していただきたい。 ○「保健だより」(毎月発行)でさらに基本的な生活習慣のあり方や自己の健康管理、保健室の正しい利用方法・マナーなどを意識付けさせる。 ○今年度、3年次で実施した性教育についての講演会が学校行事の中に定着できたので、新1年次生の入学当初に健康管理や生活習慣について本校生徒に適した外部講師を招聘して行い、生徒各自の意識改革を図る。 ○定期安全点検のあり方を点検項目や形態から再検討し、危機管理上の運営に支障がないように改善したい。 ◎生徒の在室が絶えないので、メンタルな問題の生徒に対応できる空間がない。何とかならないか考えていただきたい。 ◎保健安全と教育相談分掌合体は、本校の場合無理がある。特に学習障害生徒などのマニュアル作成などが今後出てくれば、しっかりした対応がどちらも困難になるのは明らかである。(保健室はじっくり話を聞く体制が現状は不可能なことが多い)</p>

<p>生徒会</p>	<p>今年度の評価・反省点 部活動について（部活動において、生徒が達成感を・・・） 達成できた・ほぼ達成できた ①教員100% ②生徒73.7% ③保護者60.8% ④評議委員100% 学校行事について（学校行事が組織的に計画され・・・, 学園祭・・・） 達成できた・ほぼ達成できた ①教員94.8% ②生徒73.0% ③保護者71.7% 多くの運動部で活動の成果が徐々にではあるが着実に現れるようになった。また文化局においても所属する部員が昨年度より多く、活動が停滞していた部も徐々にではあるが活動しだしている。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 運動部の数が多く指導者とのバランスがとれていないことが問題であり、今後部の精選にも取り組まねばならない。</p>
<p>教育工学</p>	<p>今年度の評価・反省点 ・HPをリニューアルし学校行事等の出来事をリアルタイムにUPできるようにしました。更新以来、25,000件に上るアクセスがありました。どの様な人がアクセスしているかはわかりませんが、生徒の評価をみる限り本校の生徒は少ないと考えられます。理由としては本校生徒向けの情報が少ないためと考えます。もう少し情報収集に力を入れればよかったと考えます。 ・HPをリニューアルしましたが、部活関係ができませんでした。 ・視聴覚機器の管理に不徹底なところがありました。まだ、機山、一商時代の機器があり管理が曖昧な場面がありました。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 ・部活動のHP作成 ・地デジ、ICT整備等の先生方への活用法などの情報提供</p>
<p>教育相談</p>	<p>今年度の評価・反省点 スクールカウンセラーが設置されていたため、精神的に問題を抱えた生徒のケアを昨年よりも適切に行うことが出来た。カウンセリングを通して、友人関係の悪化や学校不応を原因とする不登校を避けられたと思われる生徒も数名いた。担任や年次主任からも、問題の生徒についての指導方法等の助言を受けることができたため、精神的な負担が軽減されたとの感想が多かった。しかし、カウンセラーによるカウンセリングを受けるほど状況が重大ではないが精神的に問題を抱えた生徒、というのが本校には多いが、それらの生徒のケアが年次や保健安全部に任せっきりになってしまっている。それらの生徒への対応を適切に行うシステム作りが今後の課題である。また、今年度顕著だったのは、長期欠席の兆候をあまり見せないうちに、突然不登校状態になってしまい、カウンセリングを受ける間もなく転退学してしまう生徒がいたことである。本校は新生生の卒業中学校と年次担当との連絡会がないため、中学時代の状況を詳細に知ることが出来ないことが原因の一つかと思われる。教育相談便りは1号しか発行しなかった。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 教育相談部と保健安全部で、定期的に合同会議を持つなど、問題生徒についての情報の共有や、指導方法を話し合う機会を増やす。また、入試前には教えてもらえない、いじめや不登校傾向などの情報を得るために、中学校との連絡会など中学時代の生徒の情報を得る機会を作る（これは教育相談部が主になるものではないかもしれないが。）。来年度はスクールカウンセラーが配置されないため、県内の教育心理学を専攻している学生や、訪問スクールカウンセラーを活用して教育相談体制をつくる必要がある。今年度は教育相談便りの発行が非常に少なかったため、来年度は定期的に発行するよう年度当初に計画しておく必要がある。</p>

<p>教養研修</p>	<p>今年度の評価・反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の一番大きな行事は芸術鑑賞会であった。台風で延期になったが、実施できて良かった。内容も概ね好評であったようであり、また生徒の鑑賞態度も立派であった。次回は3年後であるが、今回の記録や反省をしっかりと残して3年後に備えたいと思う。 ・図書室の利用は、昨年度に比べ大幅に増えた。授業での利用、貸出冊数とも増やすことができたことは評価できる。しかし、貸出冊数において大きく落ち込んでいる年次への対策や、返却が遅れている生徒への督促等課題は多い。今年度はらいぶらりいNEWS（教員向け）を発行し図書室のPRをすることができたが、さらに広報活動にも力を入れたいと考える。 ・読書の時間が昼間変わったが、SHRに引き続きということで時間がクラスによってバラバラになることが多く、全校が一斉に取り組むという姿勢が作りづらかった。しかし、読書の時間をとってわざわざ読書をさせるという意味を大切にしていきたいと思う。 <p>来年度へ向けての課題・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室利用について 今年度同様に広報活動を考え実行する。特に利用の少ない年次に対するPRを考える。また、3年次生の返却については早い時期から督促をし、2月中に返却を完了させる。 ・読書の時間について わざわざ読書の時間を取っているという意味を生徒に考えさせる。また、実施にあたり、年次・HR Tにさらなる協力を求める。 ・研修について 学校評価で研修に関する項目の達成度が低いが、時間的ゆとりのなさから来るものであろうか。共通の課題について全体研修会を増やしていくのは難しいが、各自にとって必要な研修が受けられるように、係として研修会情報を流し職員の意識向上を図っていきたいと思う。また、様々な研修会の内容を必要に応じてより多くの職員が共有できるような方策を考えていきたい。
<p>環境整備</p>	<p>今年度の評価・反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常清掃活動の徹底については、生徒の清掃への意識が以前に比べると増してきた。しかし、反面、学校を綺麗にしようとする意識が薄いところも見受けられた。 ・清掃活動評価について、評価基準が各先生に徹底されていない面があり正しい評価がされたかが疑わしい。職員会議等で再度評価基準について、確認すべきであった。 ・環境美化委員会による学校周辺の美化活動が年1回しか出来ず、活用・活動が出来なかった。 <p>来年度へ向けての課題・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員ともに清掃活動への自主的な取り組みの意識を向上させる。 ・日常清掃活動の評価を確実に行うよう、各先生方に警鐘する。また、生徒にも評価があることを意識付させる。 ・環境美化員会の活用・活動を積極的に行い、学校内外の清掃を行うことにより生徒に美化意識を示す。

<p>渉 外</p>	<p>今年度の評価・反省点 ○PTA役員会の出欠返事の回収率が悪く、出席率が低調であった。 ○2回PTA研修会を開いたが、例年にくらべ役員以外のPTAが参加してくれたことは収穫であった。 ○昨年度よりPTA合唱団を編成し、発表のために練習したが、仕事などの都合でPTAの出席率が低かった。そのため発表の際には教職員や合唱同好会の応援があり、成立した。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 ○PTA役員会の出席率をあげるために、役員会の開始時間を16時30分から始めるようにしたい。 ○一昨年立ち上げたPTA合唱団の存続について、PTA役員とともに考えていきたい。</p>
<p>厚 生</p>	<p>今年度の評価・反省点 ・学校行事の際に、学年の飲み物注文等を的確な対応が出来たと思います。 ・転退学者や卒業生への返金は適正な処理をしました。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 ・より利用しやすい購買の運営を目指し、高校生活に必要な教材・用具が正確かつ迅速に生徒に届けられるように努める。 ・金銭の取り扱いは慎重を期し、厳正に処理する。</p>
<p>1 年次</p>	<p>今年度の評価・反省点 ○問4 :「災害が起こった場合の行動が知らされている」 理解できていない生徒が3割いる。→このような時代なので徹底したい。 ○問7 :「選択科目や必修科目が自分の個性や進路に合っている」合っていないと感じる生徒が4割いる。→1年次であれだけ履修指導をしても選択科目で自分に合っていないと感じてしまうのは、中学生に総合学科のシステムが周知されていないのではないかと思う。 ○問21 :「節電・節水・資源のリサイクル活動に取り組んでいる」取り組めていない生徒が半数近くいる。→社会的に見ても、環境について考えながら生活しなければならない。学校という教育現場でも、教えていかなければいけない問題のではないか。 ○問16 :「先生方は同じ歩調で生徒指導に当たっている。」 問26 :「先生方との間に、信頼関係ができています」割合がほぼ同じである。 →平等な生徒指導が生徒との信頼関係へとつながるのではないか。信頼関係を築くことによって、生徒の態度や服装が向上するのではないか。いずれも半数以上が達成しているので、指導の成果が現れていると思う。 ○問17 :「部活動が活発に行われている。」達成できた生徒が7割以上いる。 →もっと活性化できるように努力したい。 ○進路について意識を向けることに対して、とても良い成果が出ていると感じた。</p> <p>来年度へ向けての課題・目標 ○問2 :「先生方は、悩みや相談について応じてくれる」 問24 :「面談が計画的に行われ、適切なアドバイスを受けることができた」 問25 :「先生方は、公平な態度で指導してくれる」</p>

<p>1 年次</p>	<p>問 2 6 : 「先生方との間に、信頼関係ができてい」 3 割を超えている。 →信頼関係を築くためには、面談や三者懇談の機会を増やす。三者面談に関しては、10月も全員とできるよう授業時間を短縮する。○問13:「学校へ行くのが楽しいと思える」 問32:「甲府城西高校に入学して良かったと思う。」思わない生徒が3割いる。→進路・友人関係・校則などいろいろな原因があると思う。できるだけ生徒全員とかかわり、小さなサインにも気づいていけるよう教員も共通理解を持って、きめ細かく対応していくことが必要だと思ふ。</p> <p>○問16:「先生方は同じ歩調で生徒指導に当たっている。」 問25:「先生方は、公平な態度で指導してくれる。」達成できたが半数以上。 →女子のスカート・キュロット等年次によって異なり、指導に差が出ては仕方ないことだが半数を超えて良かった。来年度も同じ歩調で当たりたい。今年度から生徒も服装頭髪指導が厳しくなったと理解しているので、年次に差が出ないように来年度の1年次にもしっかり指導してもらいたい。生徒に対して同一歩調で指導することは難しいことだと思います。共通理解をしていくためにも、SHRの際、たまには担任の先生や副担任の先生を含めてローテーションしていくことも、それぞれの先生の話をお聴きすることができ、多少の効果があると思ふ。</p>
<p>2 年次</p>	<p>今年度の評価・反省点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問12 多くの先生方は公正で公平な評価をしてくれる」や「問15 生徒の自律性・自主性が尊重されている」や「問16 先生方は同じ歩調で生徒指導に当たっている」も40%を超えている。生徒指導、職員と生徒の信頼関係において、意識の違いが顕著であるように思われる。 ・「問20 環境美化・清掃活動が積極的に行われている」は達成率が低い。 ・「問30 図書館が有効活用されている」も40%を超えている。1年次は図書館利用のためのオリエンテーションがあったり、3年次は課題研究や進路のために図書館を利用する機会があったりするが、2年次はなかなかそういう機会がとれなかった。 <p>来年度へ向けての課題・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と指導以外に対話する時間をもっと多くとって互いの理解を深める必要があるように感じる。そうすると「問26 年次や担任の先生方との間に、信頼関係ができてい」も改善されていくのではないか。 ・日常の清掃活動への取り組みを強化させ、校内美化に努めさせたい。 ・3年次は課題研究、進路指導の面で強調しながら、図書館利用を喚起する事を考えていきたい。 ・保護者対象のガイダンス等を保護者の出席し易い日時に設定するなどして、学校への関心と連携意識を高める必要があると思われる。そのことが、アンケートの結果の中では達成率の低かった保護者アンケート問13・14等の改善にも繋がっていくのではないだろうか。

